



# MoNo 変身図鑑

## 第31回 ヒョウタン

ヒョウタンといえば、神社・仏閣で見られる縁起物や七味唐辛子入れをイメージする人も多いだろうが、実はキュウリやメロンなどと同じウリ科に属し、ユウガオと同種の植物の果実。トックリのようにくびれを持つ形がよく知られているが、形や大きさはさまざま。世界最古の栽培作物ともいわれ、用途も歴史も奥が深い。



形も大きさも多種多様なヒョウタンの数々。ひもを巻いたりねじったりしながら、いろいろな形に仕上げるのが、ヒョウタン栽培の楽しみでもある



ヒョウタンの基本形とされる千成(右)は、長さ13センチ以下。プランターでも作りやすく、初心者でも栽培しやすい

### 古代より重宝された日用品

世界最古の栽培作物といわれるヒョウタン。原産地はアフリカのモロッコ。エチオピアや南米ペルーだが、ペルーでは1万2000年前、タイでは9000年前、メキシコでは7000年前、中国では6000年前の遺跡から出土するなど、古くから世界各地で栽培されていたことがわかっていく。ヒョウタンの栽培は、生活用品に加工することが主な目的だ。ヒョウタンはウリ科の植物だが、皮は硬く、果肉は非常に苦いため、食用にはあまり適さない。人々は内部の果肉を取り出し、硬い皮を乾燥させて器として利用した。

日本では8500年前の縄文時代の貝塚からヒョウタンが見つかった。このころからシヤクや酒器、祭器、茶碗などに加工され、生活用品として重要な役割を果たしていたと考えられている。古代の前方後円墳はヒョウタンを模したという説があるが、ヒョウタンが人々の生活文化と深く密着していたことを考えると、この説にも説得力がある。

### 個性的な形を生かし多彩に変身

私たちがよく目にするヒョウタンは、千成と呼ばれるもので、ヒョウタンの中では最も小形のもの。ほかに胴回りが1メートルを超える大ヒョウ、長さ2メートル以上になる長ヒョウ、ヒシヤク形のシヤクヒョウ、表皮がいはば覆われているヒョウなどもあり、その種類は多種多様

形、大きさともこれだけいろいろあると、その用途も幅広い。トックリや印籠、たばこ入れ、薬入れなど、器としての利用法をはじめ、種を中に入れると長期間保存できる、あるいは丸く角がないという理由から、日本では縁起物としてお守りやキーホルダーに加工されている。漆加工や透かし彫り、焼き絵、絵付けを施した工芸品も各国で作られている。またあまり知られていないが、ヒョウタンが世界各地でさまざまな楽器に姿を変えているのも興味深い。

## 食 べ 物

Foods

### 漬 け 物

江戸時代から珍味として知られる千成ひょうたんの奈良漬。味はスイカの奈良漬に似ているが、あくはかなり強い。



### お 茶

天然水とヒョウタンの果皮で作られたひょうたん茶も製品化されている

### お 香

ヒョウタンの果皮を原料に使ったお香も作られている



### 化 粧 品

樹液から採取したヒョウタンエキスを利用したシャンプーとローション



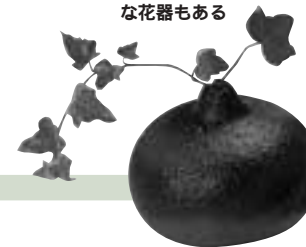
### 照 明

透かし彫りを施したヒョウタンの内部に明かりをとせば、素敵なランプやシャンデリアに



### 花 器

食器だけでなく、花入れにもなる。ヒョウタンの器に漆や金箔、いぶし加工などを施した風流な花器もある



### 縁 起 物

長寿を願う縁起物として古くから愛用されてきた



## 雑 貨

Miscellaneous goods

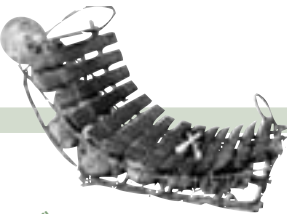
### 食 器

ヒョウタンの下のふくらみ部分をカットした急須、縦に割った弁当箱など、ヒョウタンから生まれる器のバリエーションは幅広い



## 楽 器

Instruments



### バ ラ フ ォ ン

共鳴用のヒョウタンの上に木片を並べたアフリカの木琴



### カ リ ン バ

アフリカの民族楽器。ヒョウタンで作った共鳴箱の上に鋼のキーが並んでいる

### 弦 楽 器

世界の弦楽器を融合させて開発された「ひょんく(写真提供: ザ・ひょうたんフィルハーモニック)



### ビ リ ン バ ウ

ブラジルの格闘技・カポエイラで使われる楽弓ビリンバウ。ヒョウタンを加工した共鳴器によって音が変わる

